



2026年3月5日

各 位

会 社 名 株式会社タカショー
代表者名 代表取締役社長 高岡 伸夫
(コード番号：7590)
問合せ先 常務執行役員
経営管理本部副本部長 井上 淳
(電話：073-482-4128)

個別業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2026年1月期（2025年1月21日～2026年1月20日）の通期個別業績と前期実績値との間に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 2026年1月期個別業績と前期実績値との差異（2025年1月21日～2026年1月20日）

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益 (円 銭)
前期実績 (A) (2025年1月期)	15,395	124	34	33	1 98
当期実績 (B) (2026年1月期)	15,694	409	482	196	11 65
増 減 額 (B-A)	299	285	448	163	—
増 減 率 (%)	1.9	227.7	—	488.5	—

2. 差異の理由

当事業年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善により緩やかな回復基調で推移したものの、原材料価格の高騰や円安の進行による物価上昇が個人消費に影響を与えるなど、依然として先行き不透明な状況が続きました。このような環境下、当社の個別業績において、前期実績値との間に以下の通り差異が生じました。

売上高は、15,694百万円（前期比1.9%増）となりました。主にプロユース部門が好調に推移し、11,497百万円（前期比6.3%増）と全体を牽引したことが寄与いたしました。

営業利益は、409百万円（前期比227.7%増）と大幅な増益となりました。プロユース部門の伸長による売上総利益の確保に加え、広告宣伝費や販促費の抑制、人件費・発送費の削減など、徹底した販売費及び一般管理費の効率化（前期比258百万円の減少）に努めたことが奏功いたしました。

経常利益は、482百万円（前期比448百万円の増加）となりました。為替差益として243百万円を計上したほか、海外子会社（江西高秀園芸製品有限公司）からの配当金として534百万円を受領したこと等により、営業外収益が大きく増加いたしました。一方で、海外子会社（タカショーUK、タカショーUSA等）に対する貸倒引当金を追加計上するなど、将来のリスクに備えた財務体質の強化を図っております。

当期純利益は、196百万円（前期実績33百万円）となりました。投資有価証券売却益の計上があった一方、海外子会社に対する貸倒引当金に伴う税額負担が発生しましたが、経常利益の増加に伴い、前期を大きく上回る結果となりました。

以 上